

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム 福 福
日付	平成19年3月31日
	特定非営利活動法人
評価機関名	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験15年
評価調査員	老人保健施設介護実務経験6年、居宅介護支援事業所介護支援専門員経験6年
自主評価結果を見る	(まだリンク先はありません)
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など)
2つのユニットは、百歳の誕生日を迎えたばかりの女性を筆頭に男性2人、女性7人が住んでいる「福福」と比較的元気な利用者の多い女性9名が生活する「雅」のユニットがある。福福を最初に建てて、その経験を元に雅を建てたので、2つのユニットの雰囲気は住人も含めて違う。どちらのユニット共まだ設立して2年足らずであるが、それぞれに2つの住家を作って来たという感じがする。そして個性のある18の家が出来ている。
このホームで最も大切にしているのが食事である。勤務帯で調理する当番が決まっていて、職員も腕の見せ所である。年齢を重ねた人、若い人で作る料理の趣が変わってくる。当番の職員は、今までの献立記録を参考にして、今日の食材を見て料理していく。皆、下拵は手伝うが、料理の仕上げは当番の職員の腕と頭脳によって作られていくので、何が出来るか楽しみである。
料理が出来ると、趣向をこらした陶器製の色々な食器に盛り付けされていき、何種類もの料理が小鉢に盛られ、配膳盆に1人分の料理が並び、各人の座っている席に配られる。一番楽しい時間が始まり、一つひとつの料理に箸がつく。
各テーブルに職員も着いて、一緒に食事しながら「今日の料理は美味しい?」「うん、味が良い」「今日はOOさんが作ったのよ」とその職員を指差しながら、賑やかに食べながら楽しい時間を過ごしていく。
人間、自分で食べられ、自分で排泄出来ることが、最低の自分らしい姿であろうと思う。考え方によっては、これが出来るとは最高の幸せかも知れない。これを追求しているのが、このホームの姿である。
特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした
介護計画や記録も色々工夫して作られている事も理解出来る。自己評価の各項目は、利用者サイドに立っての状態で表現しているものが多いが、全部の項目は、職員が隠れてしておかなければならない職員の業務(仕事)で成り立つものである。この一つひとつを職員全員でよく分析、改善すべきものは何かを具体的に見出していき、優先順位をつけて改善していただきたい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	「人と人との和を大切にしたいホーム」「地域に親しまれるサービス提供」「安全で快適に暮らせるホーム」を実現する事が、このホームの理念である。この理念にあるような姿のホームを実現するために、18年度の計画が短期・中期・長期に分けて具体的に立案されている。そして18年度の品質目標として「家族との関わりを少しでも多く持つよう働きかけ、利用者が穏やかに生き生きとした生活をして頂く」とある。		
	この理念を各分野に展開していくプロセスとしては見事である。しかし理念から計画、そして目標全てが全部抽象的に書かれているので、何をもって、具体的な目標達成として評価するかは難しいと思うが、是非、2つのユニット別々に18年度の結果を検証してみて、19年度の自己評価に結び付けて欲しい。具体的且つ客観的な言葉や数値で改善目標を立てていくと、立派な業務改善に結びつくであろう。		

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	広々とした敷地に、2棟のホームが建っている。丸窓と玄関ポーチが印象的である。散歩や外出する前に、利用者が玄関にあるベンチに座って、勢揃いする友を待つ姿を想像するとほほえましい。外は芝生の庭と軒下に、植えられた花々が色添えている。敷地の外に青々と野菜の茂った菜園があり、色々の野菜が毎回食卓の食材になり、両ユニットの利用者が収穫に訪れ、必要な野菜を採って帰る。この畑は、代表者の母親が年中栽培している。そこに利用者の連れて来た愛犬コロがいる。		
	建物の中に入ると、ゆったりした空間の中で、利用者は三々五々自分の友達やグループで、テーブルに座ったりソファで過ごしてゆったりと寛いでいる。		

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にしたい整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	事前のアンケート調査に、ケアマネージメントに関して重要な事に「利用者の持っている経歴や能力の持続」をあげた。「本人が自分の仕事と感じ、日々の習慣としてされる事は、その方の仕事として続けていただいています。又新しい仕事や役割を持ってもらえるような色々な仕事を職員が考え、挑戦してもらっています」とコメントしてくれた事は現場でも確認出来た。又介護計画と記録については「個人の精神能力や身体的機能の推移と現在の評価」をあげ、「毎月カンファレンスを行い、9名一人ひとりについて全職員で話し合いケアプランを作成する。ケアプランに沿った介護にあたるよう、日々の観察・申し送りをしています」という習慣も十分読み取れた。		
	これから利用者の状態は、残念ながら相当な変化が見られていくであろう。一人ひとりの状況は全部異なるが身体的行動(仕事)に拘らずむしろ利用者の心の中をどのように開いていけるかのコミュニケーションが大切な時期だと思う。このケアもよく考えておいて欲しい。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	利用者の能力の引き出し方として、一つの仕事をしてもらっていた事の一步先をもらうようにしている。野菜のしょうやくをもらったなら、次は包丁を使って、切ってもらうように一步進めてみる。洗濯物を畳んだら、その洗濯物を、一人ひとりのカゴに仕分けしてもらうという事も現認した。一つの仕事が次の作業に展開していけば、仕事の広がりを感じてもらえる事は、すばらしい事だと思う。		
	こんな事を、家族に知らせ、地域の人々にも知ってもらい、認知症になっても普通の人として暮らしている様子を理解し、応援してもらって欲しい。		